

# 論壇

## 保育士配置基準改善して

朝早くから子どもたちは保育園に元気に登園してくる。あいさつとともに子どもたちからは「○○してきた」などの報告がある。まだ話せない園児は、周りの大人を見つめて「○○は来たよ」と言わんばかり、自分の存在を知らせてくれる。徐々に出勤してくる保育者たちに「○○先生!」と呼びかけ、園児は保育者の周りに集まってくる。そして、一人一人が、話を聞いてほしい。そんな時に名前を呼ばれる保育者は、保育士冥利に尽きると思う幸せな瞬間だ。



ウィンフィールド  
ひろみ

## 負担重い園の環境

しかし「不適切保育」と称してネガティブな昨今の報道があり、保育関係者は心を痛めている。さらに「子どもを車中に置き去り」で「保育園が電話一本入れれば防げたのではないか」という世間の風潮が、保育者たちの負担感を重くしている。そういう負担感の中、保育者たちは離職する可能性が高い。

「こどもが真ん中」とうたってこども家庭庁が発足した。1人の保育士の持ち人数を改善することも検討されているが、改善というには程遠い。0歳児、1歳児の発達段階では、まだ言葉でのやりとりが難しいので、物、場所の取り合いで押したり、かみついたりすることももある。さらに、足腰がお

ぼつかないので、転倒なども多い。

ここでも保育者の目配り、気配りが求められるが、国の人事配置基準に問題がある。3人の0歳児に対して1人の保育者、2歳児未満の6人に対して1人の保育者では、児童の発達を尊重して保育することは考慮されていないと考える。万が一、災害などが起こった場合には、とても1人の保育者で3人、6人を避難させることは到底できない。

月曜から土曜日に11時間開所している中で、保育者の労働時間は週40時間。児童がフルに保育園で生活していたら66時間と長い。1日11時間保育で、シフトにより変わる保育者たちと生活するには、信頼関係の構築などもあり、十分

に安全面を考慮するのが難しくなっている。また、保護者との対応、連絡などもあり、その間に児童から目を離してしまうこともあるかもしれない。保育時間中には、園のルールをきちんと守り、保育者の話を聞いてくれる園児たちだが、保護者が園に迎えに来ると一変した態度を取って落ち着かなくなる時に、事故やインシデントも起こりやすくなる。

ちなみに1年間の保育者の労働時間は、約2080時間(260日)だが、園児がフルに保育園で生活していたら3300時間(300日)だ。園での生活時間が長ければ長いほど、インシデントのリスクは高くなる。働き方改革があるならば、子どもが親という時間の確保の改革もセットで切望する。

(浦添市、保育園園長、58歳)